青木村子どもはつらつネットワーク通信

令和4年度　第207号　2月1日

青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

昨年１１月１９日(土)に開催された第１９回信州“教育の日”青木大会の後半は、「通学合宿」についての座談会が開かれました。元信州大学教育学部教授の土井進さんを始め、７名が参加され想いを語って頂きました。その様子をお伝えします。

第19回　信州“教育の日”　青木大会

座談会テーマ　結ぼう　人の輪・地域の輪

～通学合宿がくれた宝もの～

元信州大学教育学部教授	土井　進さん
青木村教育委員会教育長	沓掛　英明さん
下諏訪南小学校教諭	小岩井　啓さん
野沢小学校教諭	真先　陸さん
青木中学校生徒	渡邊　紗綾さん
青木中学校生徒	花城　空さん
保護者	鴻巣　博子さん

教育長　青木村では社会力を育てるという教育の目標を掲げて１９年が経ちました。この間子どもたちの育成に向けて多くの方たちから力を頂いています。中でも信大 YOU 遊の学生さんたちが中心になって行われる通学合宿は、その中心的な活動として１５年もの長きに渡って続いています。通学合宿については後で詳しくお話ししてもらいますが、小学校４,５,６年の希望者が一週間親元から離れて学生さんたちと一緒に生活するものであります。青木村を巣立って行く子どもたちにとって通学合宿は最も思い出深い活動になっています。そこで本日改めて通学合宿の誕生の狙いや経過、実際に体験した子どもさんたちや学生さんの想い、さらに保護者の方の想いを語って頂き、通学合宿が私たちに残し

てくれたものは何なのかを探っていきたいと思います。

最初に自己紹介を兼ねて、通学合宿という本日のテーマに関してどのように関わってこられたか簡単にお話しください。

土井さん　青木村での通学合宿の誕生から第９回まで学生と一緒に参加させて頂きました。

真先さん　信州大学の学生として２年生から４年生まで３年間通学合宿に参加し、３年生の時に合宿長をさせて頂きお世話になりました。

小岩井さん　同じく信州大学在学中に３年間お世話になりました。また３年生の時に真先さんの次に合宿長をやらせて頂きました。それから、６年生の時に子どもとしても参加させて頂きました。

渡邊さん　小学４年生から６年生まで３年間通学合宿に参加させて頂きました。

花城さん　小学５年,6年と２年間参加させて頂きました。

鴻巣さん　現在大学生と高校生２人の３人の子どもがいる保護者です。３人とも４年生から６年生の間それぞれ３年間通学合宿に参加させて頂きました。

教育長　今から１９年前、当時の青木村教育長であった小岩井彰さんと信州大学で教授をされていた土井進先生との出会いからこの通学合宿が始まります。

改めて土井進先生から信大 YOU 遊の意味や通学合宿の狙い、立ち上げの苦労や成果などについてお話し頂きたいと思います。

土井さん　青木村の通学合宿誕生の背景とその成果について紹介させて頂きます。私は平成４年度にお茶の水女子大学から信州大学に赴任しました。４４歳でした。それから２２年間勤務し、平成２５年度に定年退職しました。２２年間のうち、20年間は学生たちと共に信大 YOU 遊の実践に全身全霊を傾けました。お茶の水女子大学の教授が「この大学には教師になろうという志をもった学生は極めて少ない。しかし信州大学には本気でいい先生になりたいという志をもった学生が全国から集っています。あなたには信州大学の方がふさわしい。あなたは実践出来ている人ですから、理論の人には負けません。」と激励してくださいました。私が担当した新設科目は【教育実習事前事後指導】でした。必修科目であるため３年生３１５人全員が受講しました。不安な思いで最初の授業に臨んだのですが、その不安がずばり的中しました。講義が終わるや否や学生が、どどどっと前に出て来て私を取り囲み次のように抗議しました。「こんなの必修授業でなければ出たくありません。もっと充実した内容のある授業をしてください。」この切実な訴えが私の胸にグサリと刺さりました。一瞬、『信州なんかに来なければよかった』という思いと、ひるがえって『これが反骨精神に富んだ信州教育というものなのだ』と思い直し、学生一人一人の心を掴むために３１５名全員に手

紙を書きました。そして授業を進めていくうちに学生たちの不満がどこにあるのかが解ってきました。それは「もっと教育学部らしく子どもたちと触れ合えるカリキュラムにして欲しい」という不満でした。私はこの不満を教育学部改革への突破口とするために学生に次の提案をしました。

① 皆さんの力を地域社会に開放し、大学と地域社会の繋がりを深めること
② 幼・小・中・高・特別支援の子どもたちに対応出来る皆さんが異年齢の子どもたちを大学キャンパスに迎えて土曜日に体験授業を行い、教師に求められる実践的指導力を練磨する

この提案に対して３１５人中３６名が賛同し、これを聞いた４年生も加わり約５０名で平成６年６月６日に『信大 YOU 遊サタデー実行委員会』が発足しました。この実行委員会の中に、かつて授業に反発した学生や反骨精神に富んだ学生も加わっていました。平成 16 年４月に青木村教育委員会教育長に就任された小岩井彰先生が 11 月に信州大学を訪問されました。私たちは通学合宿を実践する事で意気投合しました。小岩井前教育長は青木村の青少年の社会力を育成するために６泊７日の通学合宿を重点事業として貫いておられました。しかしこの事業の成否は信大 YOU 遊の学生たちが参加してくれるかどうかに掛かっていました。翌年の２月１６日雪の降る日に私は学生一人を連れ立って青木村を初訪問しました。学生は次のように振り返っています。「最初は見に行ってみようという軽い気持ちで青木村に行きました。村の中を回っているうちに少しずつ考えが変わりました。青木村は私の出身地福井県越前町と人口が同じくらいで似ているところがあり、次第にこんなところで活動してみたいという気持ちが強くなっていきました。小岩井前教育長はとても真剣で熱心に接してくださり、『青木でどんどん失敗しみろ』という言葉を掛けてくださいました。その言葉に励まされ私は青木村での活動を決意しました。」と。学生たちは授業が終わるや否や１時間以上かけて長野市から青木村に駆けつけ、通学合宿の準備に取り掛かります。学生を動かしている原動力はいったい何でしょうか。青木村での活動は、授業科目ではないので単位にはなりません。またアルバイトにもなりません。学生たちの求めているのはそういう事ではなく、青木村の子どもたちに会いたいという一心なのです。ましな教師になりたい、子どもたちと思う存分触れ合える、子どもの心が解る教師になりたいと強く願っているのです。子どもたちもお兄さ

んお姉さんが青木村に来てくれる事を楽しみにしています。通学合宿に参加しているのは小学４,５,６年生と大学２,３,４年生です。年齢的には１０,１１,１２歳と１９,２０,２１歳です。この年齢差のある青少年が約５０人で青木村文化会館の大広間で一週間の合宿生活をします。

江戸時代の薩摩藩では、郷中教育（ごじゅうきょういく）と呼ばれる異年齢集団による自治活動が行われ社会力を鍛えました。リーダーを務めたのは、２０才前後の青年で現在の大学生に当たります。この郷中教育で育った子が西郷隆盛や東郷平八郎などでした。青木村の通学合宿にはこの郷中教育に通ずるところがあると思います。

次に通学合宿の成果と思われる事を子どもと学生の視点から述べたいと思います。まず子どもたちの成長の３点を述べたいと思います。**第一に、**子どもたちは家庭を離れる不安感がありますが、それ以上にお兄さんお姉さんと一緒に生活するわくわく感があり喜びがあります。この生活の中で子どもたちは１０年後の自分の姿を学生の姿に重ね、目標を具体的に描き、希望を抱くようになります。**第二に、**子どもたちはお兄さんお姉さんと寝食を共にし、様々なプログラムに取り組む事によって人と人が繋がる力、すなわち社会力を伸ばしています。**第三に、**保護者に合宿の中間で着替えと子ども宛ての手紙を書いて持って来てもらいますが、この手紙を手にした子どもは、布団を被りながら親の愛情を噛みしめ涙しています。家庭を離れる事によって子どもたちは親に感謝する豊かな心を育んでいます。

次に学生の成長を３点述べたいと思います。**第一に、**子どもたちは文化会館を出入りする時に「ただいま。いってきます。」と挨拶をします。すると学生たちは玄関に出て「おかえりなさい。いってらっしゃい。」と声を掛けます。このように声に出してお迎えやお見送りをする事によって、学生は家庭が子どもたちのかけがえのない人間形成の場であると深く学びます。**第二に、**一日一日の学習によって成長した姿で学校から帰ってくる子どもたちを迎えて、学生は学校教育の重要性と教師の実践的指導力の重大さを痛感します。**第三に、**ある学生の話ですが、どんなに感動的な映画を観ても人前では絶対に涙を流すことは一度もありませんでしたが、通学合宿の終了式の扉が開いた瞬間に本気で人前で泣く事が出来ました。

村の子どもたちと大学生を預かってくださっている小岩井前教育長と沓掛教育長は、学生を厳しく奮闘してくださいました。「お前たちには具体性がない、感謝の気持ちを忘れるな！学ばせて頂いているという謙虚な気持ちになりなさい。」と。

次に信大 YOU 遊全体の成果を６点紹介したいと思います。

① 平成６年に信大 YOU 遊サタデーが始まると、その模様が NHK 朝７時の全国ニュースで放映されました。

② 文部科学省は信大 YOU 遊サタデーを一つのモデルとして平成９年度から『フレンドシップ事業』という名称で全国展開していきました。

③ 平成２１年３月５日、全国１０の大学から約１００名の学生が集まり、第９回全国フレンドシップ活動を青木村で開催しました。これには宮原前村長さん、教育委員長さん、教育長さんもご臨席くださいました。

④ 平成４年度に約４０％台であった教員就職率は平成１４年度には約７０％になり、全国第１位となりました。

⑤ 学生同士が我を忘れて子どもたちに尽くす事によって学生同士が深い友情で結ばれ、やがて約３０組のカップルが誕生しました。

⑥ 信大 YOU 遊を実践した学生約２０００名は、現在長野県内はもとより全国各地で校長先生、教頭先生、教務主任、学年主任、クラス担任、そして指導主事となって活躍しています。

最後に学生を青木村全体で受け入れくださり、やりたい事をやりたいようにやらせてくださいました青木村の地域の皆様、ご家庭の皆様、そして青木小学校、青木中学校の先生方に厚く御礼申し上げます。

教育長　一週間の通学合宿は本当に長いですが、それを立ち上げる時の大変さは凄いものだと改めて思います。成果も凄いです。初めて聞く事もあり感動しました。

次に、実際どのような通学合宿なのかをお話ししたいと思います。小学生の時に通学合宿を体験して、今は青木中学校３年生の２人の生徒さんから当時の通学合宿を振り返って頂き、友だちや学生さんとの活動や感想を発表してもらいます。

渡邊さん 花城さん★通学合宿とは、その名の通り一週間自宅を離れ小学校に通いながら文化会館で合宿生活を行う事です。毎年小学校４年生から６年生の希望者約４０名が参加します。私は小学校４年生から３年間参加しました。信州大学や他の大学生の皆さんが集まり企画を考えてくださいます。毎年テーマがあり、例えば２０１８年度は「相手のために出来ること」を目標に掲げ〈ヒーロー〉というテーマで活動をしました。

★初日は学生さんの自己紹介から始まり、その後、家族に「行ってきます。」の挨拶をします。笑顔で手を振って別れる子が多くいる中、いつまでも別れを惜しむ子もいます。これからはテレビやゲームがなく、家族にも会えない一週間を過ごす事になります。

★毎朝、その日の予定が書かれた模造紙が貼り出されます。それを見て全員が予定を確認しながら行動をします。

★部屋は文化会館の講堂を３分割して使います。両端は荷物や布団を置いて、真ん中では食事や学習など主な活動をします。

★学校がある日は、朝６時３０分に学生さんが起こしてくれますが、なかなか起きられない子も多く、みんなで声を掛け合います。着替えを済ませたら、配膳を協力して行います。朝食が終わったら後片付けを行い、学校へ行く準備をし、それぞれが予定の時間に登校します。

★学校が終わると文化会館に帰り、すぐに宿題をします。終わるまで遊べませんが、解らない所を学生さんが丁寧に教えてくれます。

★夕方になったら、最初に夕飯を作る班とお風呂に入る班に分かれます。夕飯を作る班はお風呂に入っている班の分も作り、お風呂に入る班は文化会館の近くにある【くつろぎの湯】という温泉施設まで行きます。お風呂の持ち時間は１班で１５分です。いつも時間が足りません。

★寝る直前にはその日の反省をパンフレットに書き、班内で発表します。その後、担当の班が次の日の天気を発表してくれます。

★木曜日の夜に、親が書いてくれた手紙を学生さんから渡されます。読んでいくと、普段から支えてもらっている事や大事にされている事が伝わってきてとても感動します。中には泣いている子もいました。

★そして金曜日の夜は、パーティーをします！小学校の先生方や教育長さんをはじめ地域の方など大勢の方が来てくださり、みんなで楽しく夕食を食べます。

★最終日は全員の感想発表があり、その後、学生さんから思い出のプレゼントなどをもらいます。一週間は思っているよりも早くあっという間に過ぎてしまいます。

★後日もう一度集まり報告会が行われます。親も一緒に一週間の振り返りやスライドショーなどを観たりします。久しぶりの学生さんとの再会はとても嬉しかったです。

★この経験を通して私たちは、周りの人と協力し合う事、地域の人との交流により社会を知っていく事、自らやるべき事を考えて行動する事などが少しずつ出来るようになりました。私たちが６年生の時に行われた通学合宿を最後に、コロナ禍の為、３年間合宿が行われていないのがとても残念です。以前のように再開し、通学合宿に子どもが集まり、笑顔と活気が戻る事を願っています。以上で、通学合宿がどのようなものかを、皆さんに知ってもらうための私たちの発表を終わります。

教育長　丁寧に説明してもらってよく解りました。花城さんは２回参加しましたが、楽しかった事や感想はありますか？

花城さん　肝試しが楽しかったです。館内を真っ暗にしてみんなで探険みたいな感じにやるので、かなり怖かった思い出があります。

教育長　こんな狭い文化会館で肝試しをしたのですね。

花城さん　はい、しました。

教育長　大学生にいっぱい脅かされたのですね。それと、別れの時はどんな感じでしたか。

花城さん　別れの時は、やはり一週間ずっと一緒にいたので凄く寂しかったです。

教育長　お母さんからの手紙を読んでどうでしたか？

花城さん　手紙は、離れていても私の事を想ってくれているのだと思い、凄く愛情が伝わってきて嬉しかったです。

教育長　同じ事を渡邊さんにも聞きます。

渡邊さん　私が一番思い出として残っているのは手紙です。手紙は普段書く機会が少ないと思います。その中で一番身近である家族からの手紙は、凄く感動して思い出として強く残っています。

教育長　通学合宿は、子どもが親から離れた事で親の有難さが解りますし、親御さんも一週間いない子どもたちの事を考える時間にもなると思います。渡邊さん、大学生と別れる時はちょっと大変だったと聞きました。

渡邊さん　一週間ずっと一緒にいて仲良くなったので、お別れの時は凄く悲しくて寂しくてギャン泣きして、学生さんにしがみついて離れられなくなって本当に恥ずかしかったです。

教育長　しがみつかれた学生さんは凄く嬉しかったと思います。

大学生の時に信大 YOU 遊の学生として通学合宿を運営され、現在は教師として教壇に立っているお二人の先生から、「通学合宿ではどのような事を考えて活動を行い、何を学んだのか」についてお話しを頂きたいと思います。お二人とも青木村出身の先生です。しかも小岩井さんは小学生の時に子どもの立場で通学合宿に参加した経験もあります。１５年の長きに渡って続けて来た事からこのようなループが生まれました。

真先さん　自分が通学合宿を通してその時どのような事を考えていたか思い返した時に、この講堂で７つぐらいのグループに分かれて一緒にご飯を食べたり、宿題をしたりしますが、グループ内で出来るだけ色々な子と関われるようにしたり、まとまった温かい空気になっていくようにしたりを考えながらやった事を覚えています。自分が一番楽しみしていたのは、小学生たちと一緒に過ごす事で、宿題が終わって文化会館の近くの公園に行って輪になって遊んだ時間がとても楽しかったです。一週間という長い期間で、始めは出来なか

った事が出来るようになったりして、子どもの持っているパワーが凄いという事を学びました。例えば講堂の入り口で靴を脱ぐ時に、最初はあまりきれいに揃っていませんでしたが、最後はきれいに並ぶようになりました。また班に馴染めなかった子が班に溶け込むようになったという成長がありました。３年間参加していたので、グループで一番小さかった４年生の子が６年生の時にはみんなを引っ張るリーダーに変わっていく、そのような長期での成長も見られた事が嬉しかったです。

教師になった今、中学生の話しにも出てきましたが、パーテーションで仕切られたところに、それぞれの班の自己紹介カードや班の活動の記録を貼ったりした事が、今の教室の環境を作るところにも通じている部分があります。子どもたちと関わるという部分で、今でも子どもたちと朝一緒に遊ぶのが楽しいのは、大学の時に青木村の子どもたちと同じ目線に立って思いっきり一緒に楽しく遊べたからだと思います。

教育長　ずっと見ていてくださったので、子どもたちの成長がとてもよく解りました。大学生さんたちの反省会の中で、グループがだんだん家族になってきた事などの発表をしていますが、その様子を教えてください。

真先さん　一緒にご飯を食べたり、お風呂に入ったり色々な会話をしていく中で、遅かった事が早く出来るようになったり、話してくれなかった子が話してくれるようになったりすると、自分たち学生も凄く嬉しいし、グループの他の子たちも満足そうで嬉しい気持ちになる、そのような温かさがあるのが家族みたいな感覚に近いと感じました。

編集後記

今回、土井先生から青木村で行われている通学合宿の立ち上げのお話をお聞きして、改めて信大生との関わりの大切さを実感することが出来ました。今年は通学合宿が開催できるといいですね。この続きは、来月号でお伝えします。